

写真で辿る 慶應看護100年

「創生～昭和初期」 1918～1937年

慶應義塾における看護教育は、初代医学部長である北里柴三郎博士が医療における看護婦の役割を高く評価した卓見に基づき1918（大正7）年に開設した慶應義塾大学医学科付属看護婦養成所に始まります。160名の志願者から選抜された第1回生54名が入学しました。その後、1922（大正11）年の産婆養成所の開設、大学医学部付属看護婦養成所への改称などを経て、慶應義塾の精神である「独立自尊」「実学」をつねに重んじ、優秀な人材の養成に努めてきました。



1936年
臨床実習・内科診察室



1936年 臨床実習・小児科診察室



1932年 臨床実習・レントゲン診察室



1930年 臨床実習・調理室



1927年 臨床実習・耳鼻科診察室



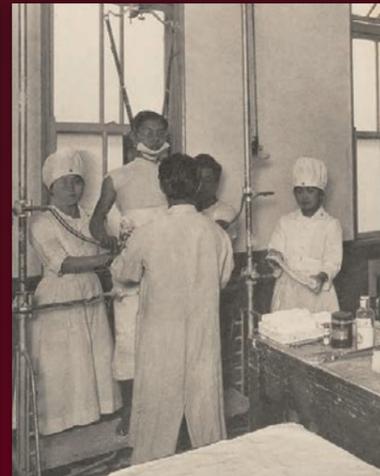
1925年 第5期生学生の肖像



1934年
紅梅会が創立され
会報第1号を発刊



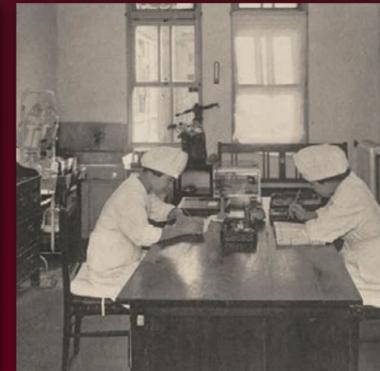
1934年 実習ユニフォーム



1930年
臨床実習・整形外科ギブス室



1930年 臨床実習・歯科治療室



1927年 ろ號病棟看護室



1925年 講義風景



1925年
第5期生修学旅行



1937年 看護婦事務室



1937年
近世復興式建築の北里記念医学図書館竣工



1932年頃の大学病院正門



1920年 大学病院開院（木造2階建、196病室、約400病床）
病院・医学部全景



1919年 養成所寄宿舎
四ツ谷信濃町の病院敷地内に養成所並びに寄宿舎を移転



1917年
白金三光町の土筆が岡養生園に仮養成所を設置